Tsunagu 45th

繋ぐ 全員で、全力で。

特別対談第一弾
鎌田長明 × 大塚良幸

日本 JC 第68代会頭　　石岡 JC 第45代理事長

繋ぐ　全員で全力で
SDGs を推進していく
ブロック大会への意識の持ち方、馳せる思い
周年事業の役割と考察
ビジョンの策定について
価値を作るデザイン的思考
地域に必要とされる人材、組織

繋ぐ　全員で全力で

大塚良幸（以下、大塚）　２０１９年の石岡青年会議所のスローガンが「繋ぐ　全員で、全力で。」と決めさせて頂きました。
人は必ず誰かと関わりながら生きていると思います。
その、人と人の繋がりを大切にして互いの想いを共有し、共感する事によって初めて相手の為に行動ができるのではないかと思います。
青年会議所も一緒で、集まったメンバーは繋がりの中で地域を想う地域愛を共に共有する事でそのまちの中で大きな力へと変わって地域の未来が変えられるのではないかと思いこのスローガンに決めさせて頂きました。

鎌田長明（以下、鎌田）　その通りだと思います。ＪＣは結構色々な繋がりが出来ますけども、繋がりを作るだけなら他の団体でもできると思いますけれども、ＪＣのポイントとは繋がりの質が違うという事にあります。
それは、地域への想いであったり自己成長であったり・・・・
同じ想いを共有する事にある。それが他の団体との大きな違いであり ＪＣの繋がりの価値があるところではないでしょうか。
また、「全員で繋ぐ」と言うのがいいですね～

大塚　２０１９年、石岡青年会議所は会員数３１名でのスタートとなる中で、４５周年を迎える年でもあり第４８回の茨城ブロック大会を主管する年でもあります。
その中でメンバーには、ぜひとも人との繋がり、メンバーとの繋がり、地域との繋がり、を感じる中で、まちを想う参画意識の醸成を図りながらまた、まちにとっても起爆剤になるような大会構築を目指したいと考えております。

鎌田　私は２０１６年から２０１８年までＪＣＩのＡＰＤＣ（アジア太平洋機構開発協議会）へ出向していましたけれども、アジア圏開発や会員拡大、新たなＮＯＭを作るという事を行っておりましたけれども、そこで分かった事ですが世界の平均的なＬＯＭの人数とは３０名ちょっとなのです。先ほど大塚理事長が２０１９年は３１名からのスタートとおっしゃっておりましたが、そのぐらいの人数がもしかすると１番まとまりやすい、全員で何かをやる事が出来る人数ではないでしょうか。
例えば１００人・２００人のＬＯＭですと全員で同じ方向を・・・・となるとやはり難しさもあるかと思いますが、３１名と言う数字は全員で同じ方向を向いて何かを行う時、現実的にいい人数なのではないかと思いました。より強固な繋がりを作っていく為には良いのではないでしょうか。

ＳＤＧｓを推進していく

大塚　会頭の所信を拝見させて頂きまして、その中で全員が挑戦し、誰一人、取り残される事のない日本社会の実現とありました。
会員全員が挑戦して、誰一人取り残されない関係を築く為に青年会議所メンバーが社会の問題解決や社会をデザインする。
私の所信の中にも鎌田会頭が掲げるビジョンを達成する為の社会・経済・人財の開発・組織の進化。
持続可能な開発目標としてＳＤＧｓの１７項目の推進とありました。
我々、石岡青年会議所でも確りと取組むべきと捉えておりますし、今後の石岡青年会議所は地域のリーダーとしてＳＤＧｓを強く推し進めて効果的なアクションを起こしていきたいと考えております。

鎌田　ぜひぜひ、宜しくお願いします。私は所信を書くときに思っていた事は、日本青年会議所の成果というのは、ＬＯＭやメンバー一人ひとりが積み上げた成果が重なって、社会に対して大きなインパクトを与えることです。もちろん、日本青年会議所として取組んでいかなければならない事も数多くありますが、やはりＬＯＭでやった方が取組みやすい価値がある事をここに取り入れさせて頂いて、実はその目玉がＳＤＧｓなんです。
今まで青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」を目指してやっている訳なのですが、いったい何を目指しているか。明るい豊かな社会とはいったいなんなんだ。と少し抽象的だった訳です。これからはＳＤＧｓという、皆が目指している目標を我々もやっていることを示すと、我々が取り組んでいることが皆さんに分かりやすく伝わると思うんです。
ＳＤＧｓとは取り分け特殊なものではないんです。例えば各ＬＯＭでやっている事をＳＤＧｓに当てはめてみると実はすでにやっている事だったりするわけです。
そのため日本全体で考えてみると、青年会議所が日本で一番ＳＤＧｓを推進している団体と言う事になるわけです。すると、我々は胸を張ってＪＣとは何をしている団体なのだと言えるようになるわけです。
そうすると、拡大もやりやすくなりますし、我々の運動もより認知されやすくなりますので、ぜひＳＤＧｓを一緒に推進していきましょう。
それにＳＤＧｓには１７項目ありますから、何をやるかはそれぞれのＬＯＭやメンバーの中で大事と思う事に取り組んで頂ければと思います。ただ、やはり同じゴールを目指してやっていくいう意識が大事なのかと思いますし理事長のおっしゃる「繋がり」をより深いものに、より良いものにしていく為には必要だと思いますのでＳＤＧｓを、ぜひ推進して頂きたいと思いますので宜しくお願い致します。

大塚　２０１７年、鎌田会頭が総務グループの常任理事を務められている年に理事長職を務めておりました木村一裕くんが２０１９年は茨城ブロック協議会の副会長としてＳＤＧｓ推進委員会を担当する事になり、これも何かのご縁なのかと感じます。
ですので、ぜひＳＤＧｓを石岡青年会議所にも根付かせて参りたいと思います。

鎌田　それと、このＳＤＧｓは、ＪＣで行うばかりではなく、メンバーの皆様の会社でもできる事です。是非、会社の活動の中にも取り入れて欲しいと思います。そして、それをする事によって、これからの企業とはお金を稼ぐばかりではなくて、いかに社会に貢献していくかが大事になってくると思います。
例えば、今までどんなに「うちの会社は社会貢献してます」と言っても、どのように、なんでやるんだ、といった事になったかと思いますがＳＤＧｓを取り入れて頂ければ、「うちの会社は○○やってます」とわかりやすく説明する事が出来ます。そういう意味でもメンバーの企業でも、ぜひ取り入れて頂きたいと思います。

ブロック大会への意識の持ち方、馳せる想い

大塚　石岡青年会議所は２０１９年に公益社団法人日本青年会議所関東地区　茨城ブロック協議会の第４８回のブロック大会を主管する立場となっております。
我々はその為にすでに様々な準備を進めております。ブロック大会と言えばまずは地域益が大前提でございますが、この機会に地域の魅力の発掘とそこに来て頂く参加者・行政の方々・地域の団体の方々などとの繋がりを強くしてまちづくりに主体的な参画意識の醸成に繋げようと思います。また、ブロック大会を経て、その先の未来に何があるのか、を考えながら大会構築をしていきたいと考えております。
そんななか、我々はどのような意識でブロック大会に臨んでいけば良いのかアドバイスなどあれば、ぜひお聞かせ頂きたいと思います。

鎌田　まず、一般論ですけど、ＪＣの大会（ブロック大会、地区大会であったり周年であったり）を何の為にやるのかというと、私が周年の理事長を務めた時に先輩に教わった事は、メンバーの為にあるのだと教わりました。メンバーの一番の成長の機会になっていると思います。普段会社で仕事をしていると大会をやるなんて事は、まず中々ないと思いますが、その大会をＪＣに入ってやることで、何が学べるかというと大会にはＪＣの行う事業の様々な要素が含まれています。人との繋がりであったり、予算管理であったり、広報であったり、また、何を発信するのかであったりと、大会にはＪＣの事業の色々が詰まっ

ています。

しかも、形がはっきりと見えているので、難しくないとは言いませんが、やろうと思えばできる事で、宛ても無く彷徨うようなものではないので。

先ほどもお話した通り、JCの様々な要素が詰まったものですのでやはり大会以上にメンバーの成長に繋がるものは無いと思います。そして、大会を開催するチャンスは全てのLOMにある訳です。なので大会や周年をやる際は、まず一番最初に考えるべきはこの大会を通してメンバーがどう成長するのか。ここが最初のポイントなのではないかと思います。

次に、各地でやるからには、やはり地域にどう還元していくかという事です。実は2つあるんです。ひとつは、大会をやるとなると予算があるんです。要するに今までその地域ではお金が無くて中々実施する事が出来なかったような事業であったり、メンバー数が少なくまとまった予算は無いがずっとやりたかった事業がある場合など。それに挑戦する機会を得るわけです。

もうひとつは大会を行う事で、地域の外から来る人たちと地元の人たちのネットワークを作る事が出来る。そのどちらかが出来れば、地域に貢献する事が出来ると思います。今までの石岡に足りなかったものをこの機会に変えていければ良いのではないでしょうか。

大塚　実は、ブロック大会の裏テーマと言うわけではないのですが、ブロック大会の開催こそが最大の組織強化に繋がるのではないかと所信にも書かせて頂きました。

茨城ブロックでは主管LOMを順番や持ち回り制ではなく、やりたいと強く願うLOMが手を挙げてやらせて頂く仕組みとなっております。石岡も2016年から手を挙げ進めて参りました。そこで今回主管となった訳ですけれども、やりたくてもやれないLOMさんがいる中で成長の機会を得たという事を確りとメンバーの中に共有して組織強化と地域の成長に繋げて参りたいと思います。

鎌田　いいですね～。ぜひ、頑張って頂ければと思います。

周年の役割の考察

大塚　続きまして周年についてですが、鎌田会頭は高松青年会議所60周年の時の理事長を務められました。2019年度は私たち石岡青年会議所も創立45周年の年を迎えます。それまでの歴史と運動を再度メンバー全員で振り返り共有し、50周年に向けて確りとスタートできるように準備する為にはどのような準備をするのが望ましいのでしょうか？

アドバイスなどがございましたらお聞かせください。

鎌田　これも先輩から聞いた話なのですが、周年をなぜやるのかというと、まず一つは先ほども申し上げた通りメンバーの成長の機会とする為です。もう一つは今までやってきた運動を清算する機会なのではないでしょうか。

JCではよく継続事業が出来てしまいます。まぁ継続事業が出来てしまう事が悪いのではありません。例えば、継続事業でお祭りを開催しているとして考えると、お祭りはほっておいても人が集まる訳です。そんな素晴らしい発信装置は無いと思いますので大事にするべきだと思いますけれども、往々にしてお祭り運営団体になってしまう事があるのです・・・笑

お祭り運営団体状態になってしまうと何が起きるかと言うと、毎年同じ事をしメンバーの成長の機会が無くなってしまうのでこれは良くありません。ですので、時代に合わせてやるべきことを振り返って、一度ゼロベースに戻して、何の為に、誰の為にやるのかを再度考える機会とするのが周年なのだと思います。

そして、5周年と0周年の違いについてですが、変化の激しい時代ですから、大体中期計画と言っても5年が限界なのかと思います。けれども、そう考えると5周年と言うのも大切になってきますし、また次の5年と言うのも考えていかなければいけない、その時に一番大切な事は5年後を想い描くという事だと思います。

5年後石岡JCメンバーにどうなっていて欲しいのか？

5年後石岡青年会議所はどうなっていて欲しいのか？

5年後石岡というまちはどうなっていて欲しいのか？

こういう事を思い描いてみて、その為にはこんな布石が必要なんじゃないか、を思い描くのが周年って事だと思います。

ビジョンの策定について

大塚　5ヵ年計画のお話が出ましたが、私たちも40周年を迎えた翌年に中村理事長が中期ビジョンを作りました。2019年も50周年に向け、新たに中期ビジョンを掲げてメンバー全員と共有し達成に向けてメンバー一人ひとりが成長できるようにと考えております。メンバーが集まり、運動を推し進めていくので、より想いが伝播して内外に求心力が高まり明るい豊かな社会に近づくと考えております。

鎌田会頭が理事長の時に考えた60周年から65周年への5ヵ年のビジョンについてお聞かせください。

鎌田　私が60周年のビジョンを作った時は5つのビジョンを作り5年後に向けてこんなことをやればいいのではないかとの方向性を決めましたが、大事な事は、どこか一点に絞り込むのではなくて、ある程度広角に見据えるという事が大事かと思います。

ビジョンを掲げる事とは何かと言うと、例えば月を目指しませんか、という事です。要するに月を目指して飛んでいけば何処かには着くからって事かと思います。

5年後だからと言って、5年後をめがけて行ってもなかなかうまくいくものではないかと思います。やはり20年後とか30年後とかにこうなっていて欲しいって事を置いて、その為には色々な道がありますよ～と指し示すのが中期ビジョンなのではないかと思います。それぞれ、その年、その年で、こっちに行こう、あっちに行こうと考える事ができるわけで、目指してるのは遠くにある、いわゆる月と言うわけです。

20年後こうなっていたいね～って感じで、こんな感じで作るといいかなと思います。

それに、20年後のビジョンって意外にぶれにくいものですし、毎年毎年それをちゃんと持っていればその方向に必ず迎えるのではないでしょうか。

大塚　高松青年会議所の70周年に向けてのビジョンについて教えてください。

鎌田　高松市は少子高齢化が進んで、人口減少が深刻な状況なのですが、いかに魅力ある都市にしていくか。外の人が入って来たくなるような開かれた都市にしたい。

そのような開かれた都市にする為にはどうしたらいいのか、というところをポイントにして当時は作りましたし、今も同じ気持ちですね。そして、その開かれたまちづくりとはどういう事か、実はその開かれたという意味で言うと国際青年会議所がありますが、このJCIの定義とは何かというと、社会の中のセクター（塊）を各種団体（企業・行政）

と繋いでいく組織と定義しているのです。

地域においても青年会議所はそういう団体だと思っております。JCは地域の中でどこでも繋げる事が出来るのです。何故かというと、特定の目的を持ってやっている団体とは競合しないのです。もう一つは歴史があるということで信用があるという事です。色々な噂はありますけれども。JC帰れ!!なんて人はなかなかいないわけで・・・・・どこにでも入って行けるわけです。なので開かれたまちにする為に、様々な繋がりを作り開いたまち高松にしていく、こういう事をやっていけばいいのではないかと思います。

しかもJCには国際の機会があります。

高松は韓国、台湾の姉妹LOMがある訳ですけれども、例えば海外から人を引っ張ってきてみたり。

開かれたまちにしよう。そのために色々な繋がりが使えるねってことですので、ビジョンを作るならばそういうことですね。

価値を創るデザイン的思考

大塚　2010年に日本青年会議所が運動指針というものが打ち立てられました。

日本を創る3つの形と政策ビジョンを読んで、人の形と、まちの形についてを私の意見書にも一致するところがあります。この指針は2020年度が終着点という形でビジョンとなっております。

鎌田会頭は2019年度からどのように2020年度に繋げていきたいと考えておりますか?

鎌田　2010年指針を読んでみて思うのは、10年たったな~と・・・・

やはり、相当世の中が変わったなと思います。これ程スマホが復旧していなかった時代ですしSNSなんかもそれほど使っている人は多くなかったし、いわゆる少子高齢化もそこまで進んでいなかったし、2019年になってIT化が進んで、一方で少子高齢化も進みました。一番大きい変化は日本の国際的地位が下がったという事ではないでしょうか。

残念ながら10年たって日本の地位というのは落ちていってしまっている。再定義するまでもなく、2019年現在も下降方向に進んでいる・・・・・

これから我々は何をするべきか・・・昔は日本が○○を行っていると言えば皆が注目してくれていた。しかし、今は日本が○○を行っていると言ってもリアクションは少ない、それは各地域にも言える事です。

例えば・・・高松を例に挙げて話しますと、昔はどちらかと言えば内陸を良くする為に瀬戸内海に橋が架かった事で内陸よりになったのですが、現在では内陸は他の地域と比べて魅力が少ない訳です。しかし、これまでさほど注目されてこなかった瀬戸内海に注目が集まり、今は海よりになって人を外から集めている訳です。結局、住んでいる人達が「これに魅力がある」と思っていてもそれに魅力がなかったりするわけです。

では、自分たちの地域の魅力をどのように見つけていくかというと、やはり外の目線で見る事が必要になってくるわけです。実は、外の目線を中に取り入れていく事はなかなか容易な事ではなくて・・・

例えば、外の人の意見を言っても、中の人は簡単には理解できないわけです。

しかし、JCというのはそれを可能にするのです。JCは先輩もいれば様々な人との繋がりもあり様々な意見に触れる事が出来るのです。

我々自身が自分たちなりに考えて中の人たちに伝えていく、このような努力がこれからは益々必要になっていくのかと思います。そういう意味で言えば、2010年の初めに比べて先行きが見えない時代ではありますが、逆に色々な事を自分たちで決めて行く時代になったのだと思います。

理想として、「こうあるべきだ!!」というものも無くなってしまった・・・・

2010年代指針を読むと、当時は「日本はこうあるべきだ!!」というのがあった時代のように感じますが、今はそれが無くなり始めてきたことを思うと自分たちで様々な事を考えていかなければいけない時代が来ている。

今後の2020年代を考えると自分たちで考える時代、衰退も戦略的に考え縮小させていくですとか、逆に拡大し広げて行くだとか考えなければいけない・・・・

日本全国が東京のように・・・・というのは難しい・・・・

日本どこに行っても変わらないよね?という時代よりも各地に様々な形がある。

大塚　お話を拝聴していて、昔と違って、新たに地域の魅力も自分たちで生み出していかなければならない時代になってきている。今まであった、当たり前の事が全然通じなくなっていく中で、青年会議所が先頭に立って進んでいく事が必要なんだと感じました。

鎌田　そうですね~やはり価値を生み出していく、デザインしていく事が大事だと思います。例えば石岡にはスカイスポーツがありましたけど、あれもスカイスポーツをやりだす前はただの丘だったと思うんですよ。でも、ここでスカイスポーツパークを創ろうと思い立った人がいて、その人が地域をデザインしたわけですよね。

そういう事をやっていかないと、価値が出てこないわけです、当然100年も前から空を飛んでいたわけでもなければ歴史や伝統がある訳でもないのですが、こんな魅力があるんだとデザインする事が大事です・・・・・

何故、先ほどから「創造」ではなく「デザイン」という言葉を使うかというと・・・・・・

例えば、スキー場を創るとして、スキー場にはリフト作れば良いって事ではないですよね。

当然リフトも必要ではあるのですけれども・・・・

宿泊施設があっただとか・・・・

子供が安心して滑れるコースだとか・・・・
全体のデザインがされていないとスキー場として価値があまりないのだと思うわけです。
箱だけ作るから批判が多い訳です・・・・笑
宿泊施設も無いのに、とりあえずリフトだけ作りました！！ってのがダメなんです・・・・・笑
やはり、デザインしていく事に価値がある訳です。
価値デザイン、あるべきところに、あるべき物があって、訪れる人が満足して帰っていくだとか、満足して暮らしていくという全体的なデザインを行っていかなければいけないと思います。

大塚　それを誰かに任せるばかりではなくて、青年会議所が先頭にたってデザインをしていかなければならないと思いますね。

鎌田　それこそ、写真が飾ってありますが、先日、麻生先輩とお話をさせてもらいました。
麻生先輩は飯塚ＪＣなんですが「飯塚のまちにあるものは全部ＪＣで考えた事なんだ」とおっしゃるわけです。笑
あそこに橋が必要だ・・・とか、ここに何が欲しいとか・・・・全部俺たちが言い出したことで、当時そんな計画は全くなかった・・笑
けど、言い出したら出来たんだよね・・・・・笑
政治家になって飯塚のまちにやった事は、ＪＣで話していたことを実現しただけだと話してくれたことがありました。
要するに、様々な事を自由な発想で話し合う事が出来る。それがＪＣであるべきですし、自分たちでまちをデザインしていかなければならないのです。

地域に必要とされる人財、組織

大塚　最後の質問です。４０周年から5年・・・現在、石岡青年会議所は様々な事業を通して、地元行政からの要望も増え例年以上に良いパートナーシップを築いており、繋がりも多くなって参りました。
それを踏まえて、今後、石岡青年会議所が地域の先頭に立って運動を発信していくにあたり会頭が考える地域に必要とされるＬＯＭのあるべき姿についてお聞かせ頂ければと思います。

鎌田　まずは、我々は様々な事と繋がっていける団体であります。これからも勿論、行政や様々な団体とも繋がっていける団体であります。行政は結構縦割りなんですが、横断的に動くことができるのがＪＣであると思うのです、やはりフットワークの軽さこそが大事にした方がいいかと思います。
あとは、卒業したメンバーが活躍する事が大事かと思います。
この団体を卒業してまちでどのように活躍していくのか・・・どのようになるのか・・・・
特に理事メンバー一人ひとりに考えて頂きたいと思います。
ＪＣを卒業したらどのような人財になるのか、どんなことができるようになるのか・・・
それを考えればおのずと答えは見えてくると思います・・・・

大塚　ありがとうございます。
今回、この対談に際し、会頭と直接お話ができる事も、日本青年会議所と石岡青年会議所との繋がりの中で生まれた貴重な機会であると感じます。私たちが会頭とお話させて頂く事はメンバーにとって励みになりますし、誇らしく感じると思います。また本日の対談の内容をメンバーが見てくれることによって、より多くのメンバーが自分たちが出来る事を強く発信していける機会になると思っております。
今年はスローガンとして「繋ぐ全員で、全力で。」と掲げさせて頂いております。
２０１９年度は本日の対談をＬＯＭに持ち帰り、全員で、全力で挑戦できる、そんな運動を推し進めて未来に繋いで参りたいと感じております。

鎌田　ぜひとも宜しくお願い致します（握手）

大塚　本日は大変お忙しい中、貴重なお時間を頂戴してこのような機会を創って頂き誠に有難うございました。（握手）

鎌田・大塚　全員で、全力で。やりましょう！

TAKEAKI KAMADA

1980年香川県生まれ。東京大学大学院経済学研究修士課程卒業。株式会社情報基盤開発代表取締役、鎌長製衡株式会社代表取締役、株式会社ケー・イー・エス代表取締役。2012年高松JCに入会し、16年理事長を務める。17年～18年JCI APDC議長、18年日本JC副会頭などを経て、19年会頭就任

YOSHIYUKI OTSUKA

1979年茨城県生まれ。土浦第三高等学校卒業、東京自動車専門学校卒業。ブリヂストン株式会社茨城カンパニー、有限会社タイヤセンターオオツカ店長。2007年石岡JCに入会し、12年委員長13年副理事長を務める。17年専務理事、18年茨城ブロック議長を経て、19年理事長就任

NEXT conversation

特別対談第二弾
溝呂木奈美 × 大塚良幸

2019年度東京ブロック会長　　石岡 JC 第45代理事長

JCI IBARAKI BLOC 48 Convention in Ishioka

第48回
茨城ブロック大会 石岡大会

JCI

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標